

進路だよい

第4号
2025. 5. 28発行
大阪市立美津島中学校

進学先について

中学卒業後の進学といえば、「高校」が一般的ですが、ひとくちに高校といっても、いろんな形態の高校があります。さらに、高校の他にもさまざまな進学先があります。進学先について少し紹介しておきましょう。

1 「高校」以外の進学先

① 高等専門学校（高専）

修業年限5年の学校です。卒業後に大学の専門課程に編入することもできます。国公立も私立もあります。学校により、工業科、商船科などがあります。自分が進みたい方向に合っていて、じっくり腰をすえて勉強したい人には向いていますが、けっこう難易度は高いです。

例 大阪公立大学工業高等専門学校 明石工業高等専門学校 奈良工業高等専門学校
神戸市立工業高等専門学校 和歌山工業高等専門学校 舞鶴工業高等専門学校
近畿大学工業高等専門学校（私立 三重県にある）

② 高等専修学校

修業3年で、洋裁、和裁、料理、ビジネス、美容、パソコンなどの専門技能を身につける学校です。私立の学校になります。通信制高校と連携しており、3年間で高卒資格と専門技能を身につけることができます。ただし、二つの学校に授業料を払うことになるので、学費はかかります。

例 大阪情報コンピュータ（ゲーム、アニメ、CG、IT ビジネス）
中央学園（商業実務、ファッショントレーニング、保育） 鴻池学園（ファッショントレーニング、福祉）
大阪美容（美容） キャットミュージックカレッジ（音楽）

③各種学校

専門的な技能や知識を習得する学校で、最短なら3か月程度という短い修業期間の学校です。学ぶ内容が限定的なので、具体的な目的がある場合にはよいでしょう。自動車運転、速記、珠算、洋裁、和裁などを学ぶ学校があります。高卒資格はとれません。

④ 高等職業技術専門校（テクノセンター）

木工、溶接、塗装、板金といった工業技術を身につけるための公的機関です。授業料はなく、実習費など実費だけが必要です。新規中学卒業者の枠は少なく、一般の大人（会社が倒産し、再就職を目指す方など）も目指す学校なので、半端な気持ちでは合格することも、続けることも難しいです。高卒資格はとれません。

2 「高校」の分類

「高校」は中学校と違い、義務ではなく主体的に学ぶところです。様々な形態やカリキュラムの学校があります。以下、さまざまな角度から高校を分類して紹介します。分類がわかったら、どのような高校があるのか自分で調べてみてください。自分が将来就きたい仕事に近づける学校はどこか、しっかり検討してください。

I 設置者による分類

- ① **国立**…国が設置する学校です。大阪府下に1校（大阪教育大学附属高校）3校舎あります。授業料は公立学校並みです。すべて普通科です。卒業後は大学に進学する人がほとんどです。合格者は必ず入学しなければなりません。受験日は京阪神の私立高校と近い日程なので、私立高校との併願は負担が大きくなります。附属中学校からの内部進学者が多く、募集人数が非常に少ないので、高い学力と適応力が必要です。
- ② **公立**…地方公共団体が設置する学校で、大阪府下のどの高校にも進学できます。合格すれば、必ず入学しなければなりません。すべて共学ですが、学校・学科によっては男女比が大きく異なります。普通科の他、様々な専門学科、総合学科の高校があります。進学に力を入れている学校では、土曜や、長期休業中にも授業をしています。専門学科の中には、就職に役立つ専門的な技術を身につけられたり、資格を取れたりするところもあります。卒業後の進路は、学校・学科に応じて傾向が違います。入試の難易度は、学校によって異なるのは当然ですが、倍率にも大きく左右されるので、年度によって若干変わります。志願者数が募集人数を越えない場合（いわゆる「定員割れ」の時）は、成績・入試結果に関わらず、全員が合格になります。年度によって難易度が変わるために、合否の予測が難しいです。「どうしても公立」という場合は、ゆとりを持って受験できる学校を選ばないと危険です。
- ③ **私立**…学校法人が設置する学校です。大阪府下に男子校が5校、女子校が17校、共学校が72校、通信制・単位制が13校程あります。他府県の学校に進学することも可能です。公立高校を第1志望にして、併願で受験すること（いわゆる、「すべりどめ」として受けること）も可能です。ほとんどが普通科ですが、一部、商業系、工業系、看護・福祉系、芸術・スポーツ系の学科を持つ高校もあります。近年は進学に力を入れている学校が多く、急激に進学実績を上げている学校もあります。学校ごとに独自の教育方針を持っており、部活動で実績を残した生徒に対する推薦入試制度、成績優秀者に対する学費軽減制度がある学校も多いです。系列の大学、中学校などを持つ学校もあります。入試の難易度は学校によって異なります。同じ学校でも、コースによって難易度が全然違う場合があります。同じコースでも専願と併願では難易度が変わります。なので、同じ学校に通っていても、学習内容や卒業後の進路は大きく異なる場合もあります。募集定員ではなく、基準点によって合否を決め、募集人数より多くの人を合格にすることができますので、中学校の成績や実力テストの結果から、高い確率で合否の予測ができます。

（次号へつづく）